

剣道の国際化をめぐる一考察 日本と海外の意識の違いに着目して

A study on Internationalization of Kendo:Focusing
on the difference of consideration between Japan and foreign countries

1K06B049

指導教員 主査 作野 誠一先生

大角 侑吾

副査 矢野 尊之先生

【緒言】

あらゆるスポーツが国境、民族の壁を越えて世界中で親しまれる中、日本の武道も同様に国際化の波に乗りながら普及発展を遂げてきた。剣道も普及の影響を受け 1970 年に国際剣道連盟(FIK)が結成、同年に第一回世界剣道選手権大会が開催された。着実な普及が確認される一方で剣道は武道とスポーツのジレンマに悩まされる。古くから継承される人間形成の道とされる武道と勝敗に左右され、競技性が強調される近代スポーツは根本的に相容れない存在として慎重な普及活動が展開されるようになった。日本武道の一つとして知られる柔道が国際化に伴い武道の精神を失ったことは周知の事実であるが、競技化により近代スポーツに取り込まれた結果であるといえる。1983 年に行われた山口らによる海外剣道家に対する意識調査から日本武道の精神は海外の人々にも理解されていることが明らかにされた。しかし、普及から時間が経過した現在においても剣道は方向性を模索している最中であるといえる。この現状を受け、改めて国内外の剣道家が国際普及に対してどのような認識を持っているのかを明らかにすると共に今後剣道界が進むべき道を提言すべく本研究を行うことにした。

【研究方法】

調査対象は国内の大学体育会剣道部に所属する剣道部員及びその卒業者とし、海外はアメリカ合衆国及びスイスを中心とした世界各国の剣

道家を対象に調査を行った。国内の回答者には紙面を用いた調査を行い、海外の回答者には海外剣道家の協力の下でメールによるアンケート配布を行った。調査では回答者の基本属性や競技環境をはじめ、剣道に対する認識、国際化に関する意識を問う質問項目を採用し、各項目について集計及び分析を行った。

【結果及び考察】

各項目において先行研究との比較を行ったが、四半世紀経過した現在でも剣道がスポーツ化しようとしている兆しは見られず、逆に武道としての地位を固めつつあることが明らかになった。国内で一般論となりつつある「外国人は日本の武道精神を理解出来ない」という考えを覆す結果と共に国内に勝るとも劣らずの熱心な姿勢が伺えた。「剣道はスポーツとして発展すべきか武道として発展すべきか」という項目では賛否両論あるも、武道としての発展を望む声が多く、スポーツと武道が別のものであると認識されていることの表れであるといえる。全体としては海外よりも国内の剣道家の価値観が変容している印象を受けた。

【結論】

海外における剣道の需要も高く、普及も世界各国において進行しているため、今後は益々国際普及が促進されていくと考えられる。普及課題としては剣道発展途上国に対する支援の徹底による武道精神の浸透、国内からの人材派遣シ

システムの構築により海外における技術伝達の充実及び定期的な昇段審査の開催、世界規模の武道演武大会の開催による武道規範の提示等が導かれた。数少ない日本武道の精神を世界中の人々に浸透させ、更なる発展を遂げるために本家本元の日本が国際剣道連盟の旗振り役として世界を牽引していく必要があるだろう。